レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

殿

2026 年 4 月 1 日

美建工業株式会社 大和工場
広島県三原市大和町大草291-1
TEL:(0847)34-0002 FAX:(0847)34-0003
配合計画者名:鶴原 明

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	(標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB	
指定事項(任意)	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	—	kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	—	コンクリートの温度	—	℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60	%
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載			
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	単位水量の目標値の上限	—	kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	—	kg/m³
	空気量	4.5 %	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	—	cm

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社		密度 g/cm³	3.04	Na2Oeq %	—
混和材	製品名	—	種類 —	密度 g/cm³	—	Na2Oeq %	—

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	モルタルバー法	5	2.65	—	2.57	3.0以下
	②	砕砂	三原市大畑町	A	化学法	5	2.70	—	2.57	3.0±2.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砕石2010	世羅郡世羅町小世良	A	モルタルバー法	20～10	7.00	—	2.61	0.5±0.5
	②	砕石1505	世羅郡世羅町小世良	A	モルタルバー法	15～5	6.40	—	2.61	0.5±0.5
	③	砕石4020	世羅郡世羅町小世良	A	モルタルバー法	40～20	7.90	—	2.61	0.5±0.5

混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	AE減水剤(標準形)	Na2Oeq % 0.5
混和剤②		—		—	—

細骨材の塩化物量	① —	② —	水の種類	回収水(上澄み水)	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	— %	
回収骨材の使用方法	細骨材	—	粗骨材	—	スラッジ水の使用方法	—	

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
283	—	161	483	321	—	305	303	405	2.26	—

水セメント比	57.0 %	水結合材比	— %	細骨材率	44.6 %

備考 JIS品

【細骨材混合比率】加工砂:砕砂=60%:40%
【粗骨材混合比率】1505:2010:4020=30%:30%:40%

夏期修正標準配合(7月1日～9月10日) 標準配合に対しAE減水剤0.2%増
冬期修正標準配合(12月01日～3月31日) 標準配合に対しAE減水剤0.2%減
骨材の質量配合割合, 混和剤の使用量については, 断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普　通	24	8	40	BB

変動係数	V	当工場の実績により	10.0　%
割増係数	α	$\alpha = \dfrac{1.0}{1 - \dfrac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$	$\alpha = 1.25$
配合強度	m	$m = \alpha \times S_L = 1.25 \times 24 = 30.0$	30.0　N/mm²
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -17.60 + 27.20 \times C/W$ $W/C = \dfrac{b}{m - a} = \dfrac{27.20}{30.0 + 17.60} \times 100 = 57.0$	57.0　%
単位水量	W	当工場の実績により	161　kg/m³
単位セメント量	C	$C = \dfrac{W}{W/C} \times 100 = \dfrac{161}{57.0} \times 100 = 283$	283　kg/m³
	Cv	Cv = C ÷ 密度 = 283 ÷ 3.04 = 93	93　L/m³
空気量	A	A = 設計容積 × 空気量(%) = 1000 × 4.5(%) = 45	45　L/m³
骨材の絶対容積	Va	Va＝設計容積－(W＋Cv＋A)＝1000－(161＋93＋45)＝701	701　L/m³
細骨材率	S/a	当工場の実績により	44.6　%
単位細骨材量	Sv	Sv＝ Va × S/a(%) = 701 × 44.6(%) = 313	313　L/m³
	Sv1	①Sv1 = Sv × 60(%) = 188	188　L/m³
	Sv2	②Sv2 = Sv × 40(%) = 125	125　L/m³
	S1	①S1 = Sv1 × 密度(2.57) = 483	483　kg/m³
	S2	②S2 = Sv2 × 密度(2.57) = 321	321　kg/m³
単位粗骨材量	Gv	Gv = Va － Sv = 701 － 313 = 388	388　L/m³
	Gv1	①Gv1 = Gv × 30(%) = 117	117　L/m³
	Gv2	②Gv2 = Gv × 30(%) = 116	116　L/m³
	Gv3	③Gv3 = Gv × 40(%) = 155	155　L/m³
	G1	①G1 = Gv1 × 密度(2.61) = 305	305　kg/m³
	G2	②G2 = Gv2 × 密度(2.61) = 303	303　kg/m³
	G3	③G3 = Gv3 × 密度(2.61) = 405	405　kg/m³
単位混和剤量	AE	AE＝C×添加率(%)＝283×0.8(%)＝2.26	2.26　kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
283	—	161	483	321	—	305	303	405	2.26	—

水セメント比	57.0　%	水結合材比	—　%	細骨材率	44.6　%

備考